



格闘家の脳梗塞糖尿病癌克服日記



国際武術総合空手道連盟
松栄塾師範 重松栄一



目次

第一節	
突然の入院	3
退院しました	4
みんなに心配をされました	7
手術の確定からセカンドオピニオンへ	9
とんでもない激痛でした	11
一夜過ぎてだいぶ落ち着きました	13
退院致しました	15
子供達から勇気をもらいました	16
エクササイズのお母様方	18
来週から抗がん剤治療開始します	19
始まった抗がん剤治療	20
記事の掲載を note に変更致しました	22

第一節

突然の入院

病の方から逃げていった自分の身体に異常を、感じたのは黒く臭い便が出たときだった、『少し、疲れているのかな』程度におもっていたのが、16日の金曜日、自分は空手の師範を、生業とする還暦男だ

道場はエレベーターなしの4階

この日はいつものように一気に駆け上がることができない、初めて経験する酷い貧血、エクササイズの仕事の片付けて、消化器科の病院へ

『胃炎ですね、出血シテイルカモシレナイノデ、紹介状書いておきますね』なぜがインドぽいドクターの判断で薬をもらう、飲むとお腹の痛みも消えて、一安心していたら、左腕が痺れてきた、まさか、脳梗塞再発？ 五十代の初め脳梗塞になったが、全く運動機能は変わらず、若い奴とガンガン殴り合ってきた

以前、お世話になった森山記念病院へ行くと、昔、お子様が弟子だったID先生が、至急、MRを撮ってくれる、『脳梗塞再発ですね』

ガーーーーん、またかよ！

人生とは、やはり要所要所で、借金払わなければならないのだなと思い

即日入院、前と変わらず痺れはあるけど運動機能は変わらずなので、安心して、ゆっくりしていたら、外科の先生が、余り良い知らせではない表情で入ってくる、

『重松さん、短刀直入に申し上げます、肝硬変から肝臓癌が見つかってしまいました』つづく(多分)

退院しました

あんなに元気に毎日稽古をしていたのに、突然の癌宣告、一時は落ち込みましたが、よくよく考えてみれば、これも必然なのだど覚悟を決めました、同じ江戸川区に住む水泳の池江璃花子さんは血液の癌である白血病を克服して、見事東京オリンピック代表を、勝ち取りました

自分も負けてはいられません

肝臓ということで、最悪な癌ではありますが、武道家として厳然と立ち向かう覚悟はできました

現代において、癌の10年延命率は60パーセントを越えているそうです

その、六割に俺が入らない訳がないと心から決意し戦って行きたいと思います、取りあえず、大好きな愛犬ヒロと行船公園を、散歩しました

！



IMG \

みんなに心配をされました

癌と分かり、このまま隠してもいつかはバレるだろうし、松栄塾を維持するには、みんなの

協力が必須だと考えた自分は、取り敢えず入院先から携帯の LINE オーディオ機能を使って

一般部の弟子達に病名を伝えました。さすが2人に1人が癌で死ぬ恐怖の病名を聞きみんな言葉を失ったおりました

「俺は超人だから、絶対治して現場に戻るからな」「押一忍」

毎週月曜日、稽古に来てくれている元修斗世界ヘビー級チャンピオンのエンセン井上さんにも

お伝えしました かつて弟分であった山本キッドさんを癌で亡くしております。また大和一族の

中にも癌で亡くなった方もおり、大変に心配をしてくださいました。

「エンセンにできる事があつたら、何でも言って」と励ましてくださり、同行されているセラさんや

RIZIN 戦士スダリオ剛さんも大変に心配をしてくださいました。

WBF 世界クルーザー級チャンピオンの西島洋介さんは「まさか、先生が癌になるとは」と絶句され

「必ず直してください」と念を押されました。

退院してすぐに主要な弟子を集め宣言をしました

「俺は武道家だから、逃げも隠れもしない 堂々と癌と闘って、それに勝利する姿をみんなに見せたい

断じて死ぬつもりはないし断じて逃げたりはしない 師範として武道家のあるべき姿をみんなに

見守ってほしい」

弟子の人たちからは昨年できなかった、還暦のお祝いと病氣治癒を願ってシルバーの指輪を

プレゼントしていただきました、そこには「松栄塾」との刻印と「師範 重松栄一」更には

「新しい人生の出発に」と英語で表記されておりました

そうだ、新しい人生の出発なんだと思い、この病を克服して大逆転を起こしてやると深く深く決意致しました。

手術の確定からセカンドオピニオンへ

森山病院では至急、対処をした方がいいと外科のドクターが、塞栓術という緊急手術を勧めてくれました。早く治して現場復帰をしなければ、松栄塾（空手道場）も潰れてしまう。即答で手術を決めました

翌週の5月7日入院 8日手術です。

この間、様々な書物や情報を集めました 一番大きく心が動いたのは、昔弟子の一人であった

現在治療院を茨城で経営している A 氏の一言でした「医者が癌と言ったら、すべて癌になってしまう」

「世に出回っている癌の6割は癌ではない」との話でした。

自分は有名な近藤教授の「患者よ癌と闘うな」も読んでいたし、一利はあると思いましたが

数年前、43歳の弟子が病院の化学治療を一切否定して、食事療法で治療をしましたが、残念ながら

半年で亡くなっているのを、垣間見ていましたので、やはり最低限、治療は行った方がいい

と考えておりました、しかし、いきなりの手術にも不安はありました。かつて松栄塾で大変にお世話になった内科小児科の開業医である赤松名誉師範にご相談したところ「セカンドオピニオンは大切であるし、いいドクターはともかく説明上手です」とご回答いただきました。

そこで。公明党都議会議員の上野先生にご相談をしたところ「東京都立駒込病院」を御紹介いただきました。そこで様々な角度から状況を、肝臓内科部長の木村先生に所見していただきました。

まずは、自分の場合、肝臓よりも怖いのは消化器にできた静脈瘤で何かの拍子にこれが破裂すると

とんでもない出血が起こり命に関わるとのことでした。今まで100キロを越えるウェイトを何回も踏ん張りながら、挙げたことを思い出し内心「守られていた」と感じました

そういう意味から、とりあえず静脈瘤を止める手術をしましょうという事で、5月24日入院

5月25日手術と決まりました、内視鏡を使った手術だからたいした事はないだろうと多寡を括っていましたが、これがとんでもなく苦しい手術でした。



IMG \

とんでもない激痛でした

上部内視鏡を使った食道内静脈瘤塞栓治療ということで、注射を使っただけの手術なので、たいした事はないだろうと思っていました。まず、麻酔が全然効かない、胃カメラを飲むところまでは

何とか我慢しましたが、もう一本更に太い電子工具を入れられたときは、喉に食べ物が詰まって、水を飲まないで死んでしまいそうな、状態が続きました。本当に窒息死するんじゃないかと思ったほどです。

更に内臓を掴まれて掻き回されているような治療が続きます。正直、地獄の痛みでした。

多分、麻酔が効いたのではなく余りの痛さに失神したのが正解だろうと思います。

気づくと病室のベッドで横になっていました。それからが本当に痛みでした。喉に詰まった状態が一晩続き、何度も喉に詰まった血の痰を吐き出しました。背中が痛いし、呼吸をすると肋骨は軋むし、ほとんど一睡もできずの朝を迎えました。これから本当の癌治療をしなければならないのに、始めからこんな感じでは、どうするんだろうと正直落ち込みました。

病に罹ると言うことは、こういうことなんだと改めて自らの運の悪さに落ち込みながらも

希望だけは捨てないと決意をしました。

いろんな人が応援をしてくれている、いろんな人たちが心配をしてくれている。どんなに辛くとも、苦しくてもこの病と闘って行くことを、何とか起き上がれるようになり

窓から見える東京スカイツリーに誓った一日でした。



一夜過ぎてだいぶ落ち着きました

昨日の地獄の苦しみから、一夜明けてだいぶ痛みはなくなってまいりました。

一日休んで、また内視鏡検査と聞き、まさかまたあの苦しみが続くのではと不安な一夜を明かしました、食べ物を飲み込むとまだ、喉につかえるような痛みが残り、ここにカメラを入れられるのかと思うと気が滅入りました。

ところが、内視鏡を使っての経過監査は全く痛みもなく、驚くほど、短時間で終わりました

次はいよいよ、関ヶ原 肝臓のMRI 検査です この検査は脳梗塞でも体験していますし

造影剤が少し熱くなるだけで、頭ならまだしも、腹部なので全く痛みも不快も感じませんでした

呼吸の調整があるので、寝てしまうことはできませんが、常に行っている呼吸法がこういう時に

役に立ちました。

その時、ふとも思ったのです。

もしも、これが愛娘 栄麻だったら、どれだけ寂しく悲しい想いをしたことでしょう。

コロナ渦の中で、面会も叶わず1人でこの恐怖に立ち向かわなければならないことを思うと

つくづく、俺で良かったと思えました 気づくと望陀のの涙が溢れ出ました、娘でなくて良かった

自分で良かった 変な話ですが病気に感謝できる自分がいました

両手を縛られているので、涙を拭うこともできず、ただただ、娘の笑顔を思い無事を祈りました

そうしていたら、妻の麻衣子や今は一緒にいない先妻の娘や息子、弟や妹の顔が思い浮かび

やはり、この子達がこの様な病気に罹ったのなら、どれほど苦しんだろうと思える自分が

そこにいました、弟や妹の数人とは断絶状態でこの数年、会うこともなかったのですが

そのようなことが思える自分自身になれたことに、身体は蝕まれても心は確実に高いステージに

行かれたとまたしても感謝の気持ちでいっぱいになりました。

この日、松栄塾名誉後援会長の高橋英樹会長より「天は乗り越えられる人にしか試練を

与えないと

いいです、塾長なら必ず乗り越えることができます」とメダルを戴きました。

これからも、いろんな試練が続くことと思いますが、必ず乗り越えて行きたいと思います。



FEAE0B66-E1B9-47BB-A6E6-3F024CF8467C \

退院致しました

29日（土）無事に退院致しました

火曜の手術あとには、どうなるのかと心配しましたが

なんとか、症状も治まり元気も戻ってきました。

病院のすぐ近くに「ふくの湯」という銭湯があり

どうしても風呂に入りたくなってしまい、銭湯に行きました

とても良い温泉で、一週間の疲れが吹き飛びましたが

やはりまだ本調子ではなく、五分入っただけで目眩を感じました

風呂から上がると、目の前にバス停があり「東京駅丸の内北口行き」と出ているので時間もあるので、バスに乗りました

意外に快適で30分ほどして、駅に着きました

薬の量が半端なく、バックは4-50キロも重さ

これで歩くのかと困っていましたが、すぐに東西線に乗れて

助かりました、西葛西駅まで娘の栄麻に自転車に来てもらい

荷物を積んで帰りました

帰りに栄麻がドーナツ屋に行きたいと言うので、元の道場

近くのミスタードーナツに寄りました

あれほど食べたかった「しるそば」を一緒に取り

ドーナツを一つだけつまみました。

家に帰ると妙に手足が吊るので、これはと思い、血糖値を

計ると、入院中は100前後だった血糖値が230を越えていました、これだから食生活は何より重要なんだと反省し、すぐに

血糖値を下げる薬を飲みました

しばらくすると、落ち着いて来たので、久しぶりに道場に

行きました、人数は少なかったですが、加納さんと匠原さんが

指導をしてくださいました。

自宅に帰って、本を読んでいると、本当に今日まで入院していたのかと不思議な気分になりました。

過ぎてしまえば、どんな苦しみも忘れてしまうものだと

人間の強さに改めて気づかしてもらいました。

子供達から勇気をもらいました

今日から6月1日です 早いもので今年もあと、1カ月で半分が終わってしまいます
人生の中で激動の半年間でしたが、だいぶ慣れてきました
最初は自分が死んでしまうという恐怖と大切な人たちとの別ればかり考えていましたが

いまは、何があっても奇跡を興して生き抜いて見せると勇気を奮い立たせております

今日、一週間ぶりに少年の稽古に参加しました
いつもは少ないのですが、今日に限って18名もの参加者があり
子供達の元気な姿に勇気と希望をもらいました
ボランティア活動から入れると40年近くなる空手の指導
何も残すことはできませんでしたが、多くの少年達に空手を伝えられたのが
自分の人生の財産だと心の底から思います

今日も感動することがありました

以前にも書いた、入院したときにお花とお手紙をくれた黒帯の少年が中心になって
稽古を進めていました 組手の時間になりある最近選手で頑張っている色帯の子が
白帯の女の子をボコボコに痛めつけてしまったのです

それを見て監督責任をこの黒帯の子に問うたところ
「僕が監督をしていたのに気がつかないで、すみませんでした」と皆の前で
謝ったのです この子は何も悪いことはしていません たまたま暴力的の子が
暴れただけのことです、その潔さ、正直な心、真っ直ぐな気持ち、この姿に皆が感動し
ていました

いまの後手後手に回って、反省もせず人に責任をなすりつけている政治家やマスコミに

この子の爪の垢でも飲ましてやりたいと思いました。

自分の人生の中で、こういう少年を育てられたことが最高の財産であると断言できます。



2003.11.20 035 のコピー.jpg

エクササイズのお母様方

月曜日よりエクササイズに出られるようになりました、来週、抗がん剤治療が、始まるとどれだけできるか全く未知数ですが、できる限りは頑張りたいと思います
思えば、ボクササイズに始まったエクササイズももう、20年やっております、多くの奥様方にご参加いただき空手の指導者だけでなく様々な指導、健康増進、ダイエット、美容、ストレス解消など共に学びながら
続けられたことは、自分の人生の華だったような気がします、これからも安くクオリティの高いエクササイズを提供できればと思います

体調ですが、やはり怠さは抜けませんが、少しづつ、良くなっていると信じて頑張っていきたいと思います

来週から抗がん剤治療開始します

病院から連絡があり、8日入院が決まりました

いよいよ、癌との対決です 今日久しぶりにキッククラスに行きますと

パーマ屋さんを経営しています峻さんがトレーニングに見えました

峻さんのところにも、乳癌や子宮癌で抗がん剤治療をされている方が

ヘヤーセットに見えるみたいです 女の命は髪に毛と言いますから

髪が抜けてしまうのは、どれほどの苦しみなのでしょう。

自分は昔から、スキンヘッドに憧れていましたし、友人の格闘家達も

みんなスキンヘッドなので、余り気にはしておりません。

ただ、民生委員に行くのが少し気が引けます

西島洋介さんもエンセン井上さんもノブハヤシさんも皆、スキンヘッドが似合っていま

す

自分は恐らく似合わないのでできたら、髪は残したいなどと贅沢考えています

そんなことを考えられるのもまだ余裕があるからだなと思えます

たとえ、どんなに苦しくてもどんなに辛くてもまだ、死ぬわけにはいきません

いま、死んだら後悔しか残らないのは自分が一番知っています

必ず今回も乗り越えて笑いながら退院したいと決意しております 押忍

始まった抗がん剤治療

生涯初めての抗がん剤治療（当たり前か）を受けました
事前の情報によると、酷く吐き気が催し、髪の毛は抜け落ち、皮膚はボロボロになるなど

余り気が進まない情報ばかりでした。

いつも通り点滴が始まり、生体塩素水を入れられ、いつ抗がん剤は始まるのさ？

吐くためのバケツとか、用意しなくて大丈夫だろうかなどと考えていたら

看護師さんから「はい、終わりました」とのこと「えっえっー」

どうやら塩素水のあとに入れた、小さな点滴が抗がん剤だったらしい

「もう、おしまいですか」「はい、二度点滴しました」どうやら、ウツラウツラしていたら

終わってしまったらしい、今のところ副作用らしいものは、何も出てはいない

「これから、酷い副作用がはじまるのだろうか、嫌だな」と考えて、その日は終わる次の日、多少微熱が出たが、それ以外には、何も変わらず、一安心しました。

更に次の日には、血液検査をしましたが、結滞は良好とのことでした。

また、天に守られ感謝致しました。

抗がん剤治療が9日水曜日だったので、金曜の検査後、退院の希望をだし

土曜日には無事、退院することが出来ました。

今日が6月16日なので、丁度一週間経ちました。

ここまで、体力の低下は感じましたが、全くと言って良いほど、副作用は出ておりません

今日は久しぶりに空手着を着て少年達と稽古ができました。

つくづく、いままで普通に出来ていたことが、幸せなことだったと今更ながら感じております

まだ、完治したわけではないので、抗がん剤治療は続きますが、もう、入院をしないで通院になっただけでも、ありがたいと感じております。

この先、何年生きられるか、人は誰でも、わかりません

いま確実に言えることは、一日一日は大切に生き切っていくことだと実感しております

この先、どのような運命が待ち受けているかが、毎日毎日大切に生ききって参ります。



2014-04-26 12.50.06.jpg

写真は、お亡くなりになられた大道塾 塾長 東 孝先生
若き頃、北斗旗で大変にお世話になりました 合掌

記事の掲載を note に変更致しました

アップロードに時間が懸かりすぎるため（パプーでは電子書籍を作るため）

この記事の続きは、note に書くことにしました。

アドレスの変更をお願い致します

<https://note.com/syoeijuku/n/n349faa4c9a08>

格闘家の脳梗塞、糖尿病、癌克服日記

著 重松栄一

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
